



編集後記

地震発生時、当院では、災害対策本部を設置、被災状況を評価し、多数傷病者に対応すべく、約1時間ですべての人員配置を完了しました。DMAT(災害医療援助チーム)5チームが支援のため来院、中部地区の病院すべての情報を共有し、転院搬送が必要な患者の対応を行ってくれました。発災当初は、停電、断水、エレベーター停止などが起こりましたが、断水以外は、当日中に復旧し通常の医療業務が可能になりました。幸い、この地震で亡くなった方はいませんでした。

当院では発災の1年前に本格的な災害訓練をしていたこと、平成28年4月に発生した熊本地震にDMATを2隊派遣するなど、災害対応能力が向上していたことがスムーズな行動に繋がったと思います。職員は被災者であり、家族の安否や自宅の被害を思いながらも懸命に業務を遂行してくれました。

地震発生から約3年が経過し、この体験を正確に記録しておく必要を感じ記録誌の作成を提案してきました。それが実現できたことは嬉しい限りです。災害に遭遇することは稀なことで、勤務している病院が被災することは一生に一度あるかないかのことだと思います。ある程度の準備ができていたとは思いますが、情報が混乱し、判断の迷い・誤りが起こって当然の状況でした。対応がうまく行えたと記録することは簡単ですが、混乱した事実をできるだけ正確に残しておくことのほうが今後に役立つと思います。特に、被災後早期のアンケートで得た生の声をそのまま記録に残すことが有益だと思いました。山本佳子司書を初めとする広報委員の方々のご尽力により、膨大な資料をまとめることができました。レイアウトや字体の大きさや色まで工夫され、読みやすい記録誌ができあがったと思います。地震を経験していない若い職員がこれを読んで学んでくれることを願っています。

最後に、この記録誌の内容について助言を頂いた井藤久雄前院長、記録誌発行を決定された皆川幸久院長に感謝の意を表します。

令和2年3月

救急・集中治療室部長 浜崎尚文



鳥取県中部地震記録誌

～鳥取県中部地震における当院職員の初動対応調査～

発行日 令和2年3月31日
編集 鳥取県立厚生病院 防火・防災管理委員会 広報委員会
発行者 鳥取県立厚生病院 院長 皆川 幸久
発行所 鳥取県立厚生病院
〒682-0804 鳥取県倉吉市東昭和町 150
電話(0858)22-8181・FAX(0858)22-1350
印刷所 山本印刷株式会社
〒682-0035 鳥取県倉吉市広栄町 971-21
電話(0858)47-0088・FAX(0858)47-0123